

はじめに

「学校で学んだことが、子供たちの『生きる力』となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。」

これは、文部科学省が新しい学習指導要領周知のために作成したリーフレットの一節です。

教育センター学びの丘では、「研修の充実」「研究の推進」「学校への支援」の3つの柱を通して、そうした願いを実現すべく事業を展開しています。

本誌は、当センターが実施する各種事業が、より充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう、所員等が今年度研究した以下の4つの内容を掲載しています。

「小学校外国語科における『読むこと』『書くこと』の指導を踏まえた単元構想と学習評価についての一考察」では、新学習指導要領対応小学校外国語教材“**WeCan!**”を用い、「読むこと」「書くこと」を踏まえた単元構想と指導方法、そして学習評価について研究した内容を提案しています。

「2年次教員と中堅教員によるクロスセッションについての一考察」では、2年次教員と中堅教員に対して、授業研究及び教員育成指標を基に、経験年数等を解いた小グループで協議する研修を実施し、教員育成指標を活用した校内研修の在り方や若手教員の資質・能力の向上を図る方法について提案しています。

「理科における学習指導の改善・充実に関する取組について」では、「県外派遣教員の長期研修」事業及び「きのくに学力向上総合戦略」事業を活用して行ってきた取組の内容を紹介し、今後の展望等について提案しています。

「和歌山県における特別支援教育の推進について」では、平成26～30年度にかけて、特別支援教育推進のための教員の専門性の向上を図ることをねらいとして実施した、「特別支援教育の基礎・基本研修」が、発達障害の特性理解等、教員の基礎的知識の習得につながったことについて報告しています。

以上、これらはいずれも新しい学習指導要領の願いの実現に向け、一助となる研究内容であると考えています。本誌の内容が当県教育のさらなる充実につながることを願うとともに、ご高覧の上、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

平成31年3月

和歌山県教育センター学びの丘

所長 鈴木 晴久